

第4学年国語科学習指導案

日 時 平成26年11月7日（金）公開授業I

対 象 4年1組 男17名 女16名， 計33名

指導者 村 上 尚 子

1 単元名 物語を読んで、感想文を書こう 「三つのお願い」

2 単元の目標

第4学年の目標

(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づくことができる。

3 単元の評価規準

観点	B：おおむね満足できる
国語への 関心・意欲・態度	物語を読んで、登場人物と自分の体験を関わらせながら感想を述べようとしている。
読む能力	物語を読んだ感想を、どの叙述に基づいているか、自分の経験などどう関連しているのかを明らかにしながら発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(オ)
言語についての 知識・理解・技能	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて、文や文章を読んでいる。(イ (ア))

4 単元について

(1) 児童について

児童は、物語の設定に関わる情報の読み取りを、これまでの文学教材で繰り返し行っている。また、3年生の「モチモチの木」の学習では、場面ごとに人物の会話や行動を整理し、登場人物の「人間らしさ」をつかむ学習を行ってきた。また、4年生の「白いぼうし」、「一つの花」では、会話や行動から人物の人柄や心情を想像する学習を行っている。本教材で、既習の読みの力を生かし、叙述をもとに人物の性格や人柄、場面の様子などを想像する力をさらに伸ばしたいと考える。

児童の日頃の学習や生活の様子は、自分の考えを書くことには個人差が見られる。しかし、友達が書いた文章を読んだり聞いたりして学ぼうという気持ちをもっている児童は多い。お互いの考えを聞き合い、学び合うことによってさらに読み取りの力が高まると考えられる。そこで、本単元では、物語の感想を書くことを取り上げ、交流によって異なる考えを学び合う学習活動を行っていくこととする。

(2) 教材について

「三つのお願い」は、1セント硬貨がかなえるという三つの願いをめぐる、等身大の少女と少年の人間関係が描かれた作品である。一人称の視点で書かれているため、主人公ノービィの心情が地の

文・会話文に直接的に表れており、行動や会話から人物の性格や気持ちを想像して読む学習が行いや
 しい。願いごとがかなうごとに変化していくノービィの心の叙述に即して読み取らせたい。また、等
 身大の友達関係が描かれたこの作品は、児童が自分を作品に重ねやすく、感想をもちやすいと思われ
 る。

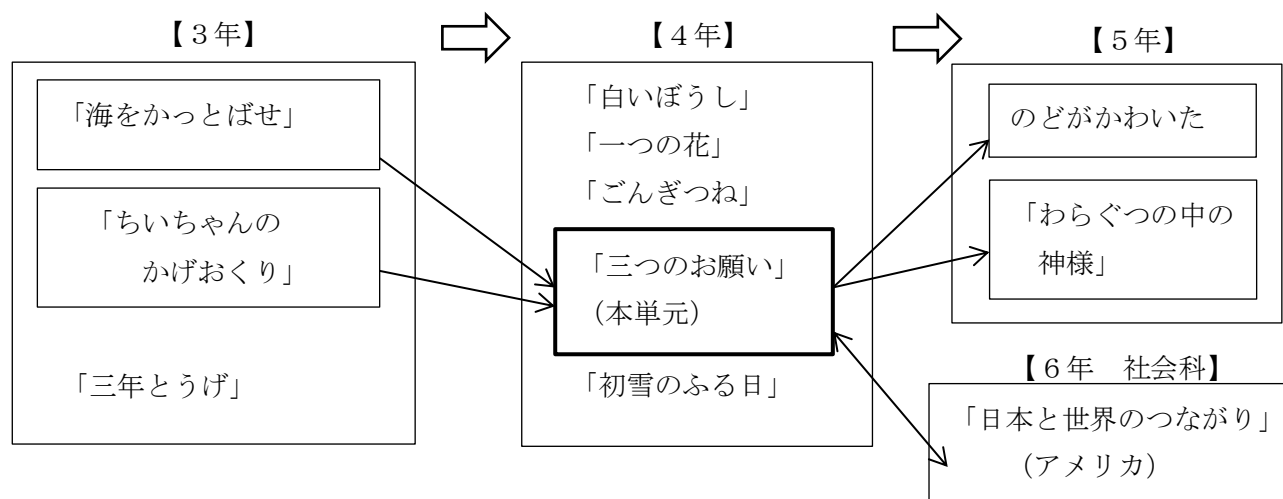
(3) 指導について

本単元では、「物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあること
 に気づくこと」ができるようにするために、「物語を読んで、感想文を書こう」を言語活動に位置づけ
 る。

登場人物の性格や気持ちの変化などを会話や行動を表す叙述をもとにして読み取らせた上で、「自
 分と似ている部分」や「違う部分」、「自分だったら・・・」という視点で、自分と関わらせながら感想
 を書いていくようにする。このことにより物語と自分とを重ね合わせて読めるようになり、そのこと
 から一人一人の多様な読みがあることに気付くようになると考える。

本研究の視点1「場のつながり」に関わっては、自分の考えと比べながら感想をもって聞き、「一人
 一人の感じ方の違いに気づく」ことを大切に指導していきたい。視点2「教材のつながり」に関わっ
 ては、3年生の「ちいちゃんのかげおくり」（人物の気持ちを考えながら読み、感想をまとめよう）で
 の学習を生かし、さらに5年生の「わらぐつの中の神様」（物語を読んで、自分の考えをまとめよう）
 につながるように、自分と重ね合わせて読むことの楽しさを味わわせたい。視点3「ひとのつながり」
 に関わっては、他の物語文でのモデル文を提示することで、全児童が物語の登場人物と自分を重ね合
 わせて読むことができるようにさせたい。その上で、お互いの考えを交流し合えるように指導したい。

5 単元の系統と他教科との関連



6 単元の指導計画(9時間扱い)

- | | |
|---------------------------------------|--------------|
| (1) 初発の感想を書く。単元の見通しをもつ。 | 1時間 |
| (2) 物語の設定と展開をとらえる。 | 1時間 |
| (3) 登場人物の性格や人柄を会話や行動から想像し、自分と比べながら読む。 | 2時間 (本時 2/2) |
| (4) 「三つのお願い」の書かれ方の工夫に目をつけて読む。 | 1時間 |

- (5) 資料を読み取り、書かれ方の工夫を見つける。 1時間
- (6) 感想文の組み立てを確認し、感想文を書く。 1時間
- (7) 書いた文章を推敲する。 1時間
- (8) 友だちと感想文を読み合う。 1時間

7 本時について

(1) 目標

登場人物の性格や人柄を会話や行動から想像し、自分と比べながら読むことができる。

<読む能力>

(2) 本時の「自分の考えをもつ」自「互いの考えを交流する」交「互いのよさに気づく」気場面

「自分の考えをもつ」場面は、登場人物と自分を比べたり、登場人物と似た自分の体験について、考えをまとめる場面である。「互いの考えを交流する」場面は、自分の考えをペアで伝え合う場面である。「互いのよさに気づく」場面は、全体で交流する際に発表者の考えのよさをみつけたり伝えたりする場面である。

(3) 展開

段階	学習活動	場面	○指導上の留意点●評価の観点(方法)
導入 5分	1 本時の学習の見通しをもつ。 2 課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ノービィと自分をくらべて、感想を書こう。</div>		○指導上の留意点●評価の観点(方法) ○前時の学習を想起させ、本時の学習の見通しをもたせる。 ○何をくらべたらよいかを確かめる。 <行動・経験や体験・もし自分だったら>
展開 30分	3 課題を解決する。 (1) 登場人物の性格や人がらが分かる文を書き出し、人物の性格や人がらを考える。 (2) 全体で交流し、まとめる。 (3) 登場人物と自分を比べたり、登場人物と似た体験について考えて書く。 4 感じ方の違いを見つけるために、自分の考えをペアで交流する。 5 全体で交流する。	自 交 気	○前時の学習で確認した会話や行動、様子に注意して読むことを想起させる。 ○既習の物語文でモデルと文型を提示し、どの子にも考えを文でまとめることができるようにさせる。 ○ノートに書いたことを伝え合うと共に、相手の考えについての感想を伝えさせる。 ○発表者の考えのよさを認め合う雰囲気を作る。
終末 10分	6 本時のまとめをする。 7 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。		●登場人物の性格や人がらを会話文や行動描写から想像し、似ているところや違うところなど、自分と比べながら読んでいるか。(ノート・発言)

(4) 板書計画

物語を読んで感想文を書こう

二つのお願い

ノービイと自分をくらべて、感想を書こう。

一、登場人物の性かくや人がらを考える。
会話・行動から

ノービイ・・・明るい・はっきりしている。
ビクター・・・信じやすい、口がかたい。

二、登場人物と自分をくらべたり、登場人物と似た体験を考える。

・似た体験がある。それは、・・・
・似た体験がない。自分だったら・・・

三、ペアで交流する。

・必ず感想を伝える。(例 ・ノービイと自分の似ているところをよくみつけましたね。・わたしもそんな体験をしたことがあったのを思い出しました。)

四、全体で交流する。
まとめ

登場人物と自分を重ね合わせて読むこと
によって、物語の理解が深まる。↓中身が
こい感想文になる。